

様式 3

2023 年度 埼玉県立大学保健医療福祉学部作業療法学科
教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
保健医療福祉学部作業療法学科	4人	8人	0人	3人	15人	6人	15人	0人	3人	10.9人	基礎医学系の科目は自学内常勤教員（医師等）によって実施
計	4人	8人	0人	3人	15人	人	15人	0人	3人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員的人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3

	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	英語Ⅰ	15	飯島博之	兼任
		英語Ⅱ	15	飯島博之	兼任
		英語Ⅲ	15	飯島博之	兼任
		英語Ⅳ	15	飯島博之	兼任
		コンピュータ演習	15	森村繁晴	兼任
		哲学	15	高村夏輝	兼任
		倫理学	15	高村夏輝	兼任
		宗教学	15	浅川康宏	兼任
		文学A	15	鈴木貴子	兼任
		文学B	15	相馬尚之	兼任
		歴史学A	15	宮古文尋	兼任
		歴史学B	15	高橋裕子	兼任
		文化人類学	15	浅川康宏	兼任
		民俗学	15	浅川康宏	兼任
法学（日本国憲法を含む）	15	篠塚達徳・藤井智也	兼任		

		政治学	15	遠藤正敏	兼任
		経済学	15	加藤俊伸	兼任
		社会学	15	河野憲一	兼任
		教育学	15	東宏行・森村繫晴・西村彩 恵	兼任
		心理学	15	越智幸一・山本尚樹	兼任
		コンピュータ科 学入門	15	森村繫晴	兼任
		基本統計学	15	植野正之	兼任
		科学史	15	小松睦美	兼任
		数理科学	15	小松睦美	兼任
		物質の科学	15	小松睦美	兼任
		物理学	15	小松睦美	兼任
		化学	15	四ノ宮美保	兼任
		生物学	15	小林憲生	兼任
		自然科学実験	15	小林憲生	兼任
		物理学実験	22.5	小松睦美	兼任
		化学実験	22.5	未定	兼任
		生物学実験	22.5	小林憲生	兼任
		英語演習 A	15	佐藤耕太	兼任
		英語演習 B	15	武久智一	兼任
		英語演習 C	15	荒木和美	兼任
		英語演習 D	15	飯島博之	兼任
		中国語 I	15	新田小雨子	兼任
		中国語 II	15	新田小雨子	兼任
		コリア語 I	15	小坂伸顕	兼任
		コリア語 II	15	小坂伸顕	兼任
		フランス語 I	15	満島直子	兼任
		フランス語 II	15	満島直子	兼任
		スペイン語 I	15	フィゲロラファエル	兼任
		スペイン語 II	15	フィゲロラファエル	兼任
		手話	15	高橋喜美重	兼任
		日本語表現法	15	比嘉徹徳	兼任
		人間関係とコミ ュニケーション	15	大塚斉	兼任
		海外英語研修	15	2022 年度開講せず	
		芸術活動 A	15	伊藤知子	兼任

		芸術活動B	15	牧野由理	兼任
		社会参加活動	15	保科寧子	兼任
		スポーツ実技 I	15	高田佑輔・荒谷幸次・八十島崇・金子伊樹	兼任
		スポーツ実技 II	15	後藤晴彦・八十島崇・島田伊都美	兼任
		スポーツと人間	15	高田佑輔	兼任
		総合文化研究A	7.5	浅川泰宏	兼任
		総合文化研究B	7.5	柏木裕之	兼任
		総合文化研究C	7.5	岡村徹	兼任
		国際関係研究	7.5	足立香	兼任
		国際協力研究	7.5	川口えり子	兼任
		地球環境論	7.5	四ノ宮美保	兼任
		埼玉研究	7.5	浅川泰宏	兼任
		比較文化研究	7.5	小泉優莉菜	兼任
		生命の意味	7.5	小林憲生	兼任
		生命倫理の諸問題	7.5	高村夏輝	兼任
		人間関係論	7.5	山本栄美子	兼任
		人間の探求	7.5	小林憲生	兼任
		教養ゼミナール	15	浅川泰宏・小松睦美・小林憲生・高村夏輝・八十島崇・浅川泰宏	兼任
		ヒューマンケア論	15	佐藤玲子	専任
		専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	15
生理学	15			田中健一	兼任
人間発達学	15			森正樹	兼任
解剖学特論	15			高柳雅朗	兼任
臨床心理学	15			大塚斉	兼任
解剖学実習	22.5			高柳雅朗	兼任
生理学特論	15			田中健一	兼任
生理学実習	22.5			田中健一	兼任
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	救命救急法とファーストエイド		7.5	竹島太郎	兼任

		カウンセリング 技法	15	東宏之	兼任
		病理学	7.5	安藤克己	兼任
		栄養学概論	7.5	田中健一	兼任
		臨床画像診断演 習B	7.5	山田恵子	兼任
		内科学	15	滑川道人	兼任
		整形外科	15	山田恵子	兼任
		脳神経内科学	15	滑川道人	兼任
		精神医学	15	佐藤晋爾	兼任
		小児科学	7.5	佐々木溪円	兼任
		リハビリテーシ ョン医学	15	山田恵子	兼任
		臨床薬学	7.5	田中健一	兼任
		身体機能作業療 法学	7.5	鈴木貴子	専任
		保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	ヒューマンケア 論	15	佐藤玲子
ヒューマンケア 体験実習	22.5		久保田富夫	専任	
IPW 論	7.5		今北秀高	兼任	
IPW 演習	7.5		田村佳士枝	兼任	
IPW 実習	22.5		河村ちひろ	兼任	
リハビリテーシ ョン医学	15		山田恵子	兼任	
作業療法マネジメ ント論	7.5		久保田富夫	専任	
専門分野	基礎作業療法学	生活と障害	7.5	松尾彰久	専任
		作業療法学概論	15	松尾彰久	専任
		作業療法運動学	15	鈴木貴子	専任
		基礎作業学	7.5	松尾彰久	専任
		作業療法運動学 実習	22.5	鈴木貴子	専任
	作業療法管理学	作業療法マネジメ ント論	7.5	久保田富夫	専任
		作業療法情報管 理論	7.5	久保田富夫	専任

	作業療法評価学	身体機能作業療法評価学	7.5	南雲浩隆	専任
		身体機能作業療法評価学演習	7.5	南雲浩隆	専任
		身体機能作業療法評価学実習	22.5	南雲浩隆	専任
		日常生活活動学	7.5	臼倉京子	専任
		日常生活活動評価学	7.5	臼倉京子	専任
		高次脳機能作業療法学	7.5	石岡俊之	専任
		高次脳機能作業療法評価学	7.5	石岡俊之	専任
		作業分析学実習	22.5	田坂翔太	専任
		臨床作業療法技能実習	22.5	中村裕美	専任
		精神機能作業療法評価学	7.5	上原栄一郎	専任
	作業療法治療学	身体機能作業療法学	7.5	鈴木貴子	専任
		精神機能作業療法学	7.5	上原栄一郎	専任
		作業治療学	7.5	久保田富夫	専任
		身体機能作業療法学実習(運動器)	22.5	鈴木貴子	専任
		身体機能作業療法学実習(中枢神経)	22.5	小泉浩平	専任
		日常生活活動学実習	22.5	臼倉京子	専任
		生活環境技術学	7.5	小池祐士	専任
		生活環境技術学演習	15	小池祐士	専任
		精神機能作業療法学実習	22.5	柴田貴美子	専任
高次脳機能作業		15	石岡俊之	専任	

		療法学演習			
		義肢・装具学	7.5	笹尾久美子	専任
		義肢・装具学実習	22.5	笹尾久美子	専任
		高齢期作業療法学	7.5	中村裕美	専任
		発達期作業療法学演習	15	押野修司	専任
		職業関連技術学	7.5	柴田貴美子	専任
		作業療法研究法	7.5	久保田富夫	専任
		作業療法研究 A		久保田富夫	専任
		作業療法研究 B		久保田富夫	専任
		作業療法総合演習	15	濱口豊太	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学	15	松尾彰久	専任
		高齢期作業療法学実習	22.5	中村裕美	専任
		発達期作業療法学実習	22.5	押野修司	専任
	臨床実習	臨地体験実習(身体機能)	67.5	南雲浩隆	専任
		臨地体験実習(精神機能)	67.5	上原栄一郎	専任
		臨地体験実習(高齢期・発達期)	45	中村裕美	専任
		臨地総合実習(身体機能)	157.5	笹尾久美子	専任
		臨地総合実習(精神機能)	157.5	柴田貴美子	専任

各科目の教育内容詳細については、大学 HP シラバスを参照してください（学外からのアクセス限定）

URL : <https://www.spu.ac.jp/life/syllabus/>

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
○	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
身体機能領域の作業療法評価の体験	2年後期	生活と障害	1年前期
		作業療法学概論	1年前期
		作業療法マネジメント論	1年後期
		作業療法運動学	1年後期
		基礎作業学	2年前期
		作業療法運動学実習	2年前期
		身体機能作業療法学	2年前期
		身体機能作業療法評価学	2年前期
		身体機能作業療法評価学実習	2年後期

		日常生活活動学	2年後期
		日常生活活動評価学	2年後期
		高次脳機能作業療法学	2年後期
		高次脳機能作業療法評価学	2年後期
		作業分析学実習	2年後期
		作業療法情報管理論	2年後期
		臨床作業療法技能実習	2年後期
精神機能領域の作業療法評価の体験	3年前期	生活と障害	1年前期
		作業療法学概論	1年前期
		作業療法マネジメント論	1年後期
		基礎作業学	2年前期
		作業分析学実習	2年後期
		作業療法情報管理論	2年後期
		精神機能作業療法学	2年後期
		精神機能作業療法評価学	3年前期
		作業治療学	3年前期
高齢期または発達領域における地域作業療法の見学・体験	3年後期	作業治療学	3年前期
		身体機能作業療法学実習（運動器）	3年前期
		身体機能作業療法学実習（中枢神経）	3年後期
		日常生活活動学実習	3年前期
		生活環境技術学	3年後期
		生活環境技術学演習	3年後期
		高次脳機能作業療法学演習	3年後期
		地域作業療法学	3年後期
		高齢期作業療法学	3年前期
		高齢期作業療法学実習	3年後期
		発達期作業療法学演習	3年前期
		発達期作業療法学実習	3年前期
身体機能領域の作業療法治療の実践	4年前期	作業治療学	3年前期
		身体機能作業療法学実習（運動器）	3年前期
		身体機能作業療法実習（中枢神経）	3年後期
		日常生活活動学実習	3年前期

		生活環境技術学	3年後期
		生活環境技術学演習	3年後期
		高次脳機能作業療法学演習	3年後期
		地域作業療法学	3年後期
		高齢期作業療法学	3年前期
		高齢期作業療法学実習	3年後期
		義肢装具学	3年前期
		義肢装具学実習	3年後期
		職業関連技術学	3年前期
精神機能領域の作業療法治療の実践	4年前期	作業治療学	3年前期
		精神機能作業療法学	2年後期
		精神機能作業療法評価学	3年前期
		精神機能作業療法学実習	3年後期
		地域作業療法学	3年後期
		高齢期作業療法学	3年前期
		高齢期作業療法学実習	3年後期
		職業関連技術学	3年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

※2023年度に、身体機能領域と精神機能領域で1施設ずつ、主たる実習施設の協定を結ぶための手続きの整備を完了し、2024年度より協定を結ぶ予定である

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定

○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
○	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	高等教育開発センター
委員名（委員長）	東宏行
組織の開催頻度	一月に一度
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析
	・ 教育改善の研修会の開催企画
	・ DP, CP の検討
自己点検・評価結果の公表	大学HPでの公表 URL : https://www.spu.ac.jp/ 学生による授業評価アンケート結果 URL : https://www.spu.ac.jp/life/evaluation/ FACTブック URL : https://www.spu.ac.jp/about/numbers/ 大学評価 URL : https://www.spu.ac.jp/about/disclosure/evaluation/

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	高等教育開発センター
	委員構成等	高等教育開発センター調査分析部門，科目責任者
	改善の仕組みの実際	<p>毎年，シラバスに記載すべき注意事項について案内を出し，各自が点検して作成している．また，学生による授業評価アンケートの項目の中に，シラバスに関する調査項目を設け，わかりやすさや参照した度合い等について学生からの評価を受けて次年度に反映させる仕組みがある．</p> <p>各科目で行われた授業評価アンケートの結果は，高等教育開発センターの調査分析部門で集約・解析され，その結果を基に次年度シラバスの記載内容等の改善箇所を検討し，対応を行っている．</p>

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>埼玉県立大学は，2018年度に大学基準協会による「認証評価」を受け，「適合」認定となり，2022年度には改善報告書を提出した（https://www.spu.ac.jp/about/disclosure/evaluation/）</p> <p>2022年度のリハビリテーション教育評価機構の評価認定審査を受け，その結果に対する報告書を提出し，日本作業療法士協会（JAOT）および世界作業療法士連盟（WFOT）認定校となった．</p> <p>認定期間：2023年1月1日～2027年12月31日（認定日2023年3月15日）．</p> <p>教員および教育内容の自己点検については，カリキュラムポリシーを遵守し，毎週行われる定例会議において，課題の報告および共有，検討を継続している．</p>
